

尋常ならずすぐれたる

徳のありて可畏き物を

迦微とは云なり

もとおり のりなが
本居 宣長

裏面もご覧ください。

神社は心のふるさと

未来に受け継ごう「美しい国ぶり」

「普通でない優れたところがあつて、
恐れ多いものを神という。」
古事記を研究し著した『古事記伝』
中で、日本人が古くから持っていた
「神」に対する考え方を述べたもの。

本居 宣長

江戸時代の国学者・文献学者・医師。
伊勢国(三重県)松坂の人。二十二歳
で医学の修行のため京都へ遊学し、
儒学・古典等を修め国学の道に入る
ことを志す。松坂に帰り診療所を開
業し、そのかたわら源氏物語、古事
記など古典文学の注釈や漢字音、文
法などの国語学的研究にすぐれた
業績を残した。また復古思想を説い
て儒教を排し、国学の思想的基礎を
固めた。国学四大人の一人。著書に
『源氏物語玉の小櫛』『古事記伝』
『玉勝間』『直毘靈』などがある。

神道知識の誘ひ「大祓」

日々の暮らしの中で知らず知ら
ずのうちに、わが身の内外に降
り積った悪しきものを祓い清め、
無病息災を祈る神事を「大祓」と
いいます。これは毎年六月と十
二月の二回、その月の末日に行
われます。平安時代の法令集、
「延喜式(えんぎしき)」にも、六
月と十二月の大祓が記されてお
り、古くから行われていたこと
がわかります。悪いものを形代
に移し祓い清めることで、心身
を清浄で生命力に満ちた状態に
戻し、次の半年間を新たな気持
ちで迎えるのです。

東京都神社庁

<http://www.tokyo-jinjacho.or.jp>

